

農業環境における放射線影響ゼミナール(大学院)
農業環境の放射線影響(学部)
アンケート(平成 27 年 10 月 19 日)

【質問】放射性物資が降下・沈着した地域の森林をどうすべきか？

考える選択肢を書き出して下さい。

1. 森林の荒廃を防ぐ最低限の手入れ(枯木の伐採、討伐の除去など)をしつつ、放射性物質の影響が問題ない程度になるまで待つ。汚染土壌の除去のような大掛かりな作業はコストが大きいため、一部で実験的に行うことは有用かもしれないが、森林全体に作業を施すことは現実的ではない。放射線影響が低減するまでの間、森林資源を利用する産業は制限されるが仕方がないように考えられる。下流地域の住民へ、被害を防ぐための説明や行政サービスも同時に必要だ。
2. 個体差が大きいので、汚染具合によっては材として使えるものもあるかもしれないので、充分育ったものは伐ってしまう。米で行ったのと同じように全樹木の検査を行い安全なものは材として使い、伐った森林には新規植栽や天然更新をさせて、小規模でも林業を行って人の手を入れるべきと考える。汚染のひどい地域の森林は外縁だけ伐採して病気の伝染を防ぐ緩衝地帯のようなものを作る。森林動物が汚染された土壌を運び出すことも防げるだろう。
3. その地域に立入ることが可能であれば病気になった樹を伐倒してこれ以上の被害を防ぐ。研究機関に土地を貸し、放射性物質の研究を行ってもらうことで早期解決を目指す。そして、研究機関が伐倒などを行うのであればある程度費用を出すべきだ。
4. その森林の下流に住んでいる人たちは不安に思うかもしれないが、森林から放射性物質がほとんど流出しないというデータをその人たちにきちんと理解してもらった上で、現状のまま移行を見守るべきだと思う。可能であれば使えなくなった木を国が買い取り、燃やしてしまうのもありだと思うが、あまり現実的ではないと感じる。
5. わが国の人工林は、植生から年月が経過し、現在、木材として出荷できる時期を迎えつつある。放射性物質が残留した木材から建材を作りその建材から作った家屋に住んでも、健康被害が出ないことが明確になっているので、放射性物質が降下沈着した地域の森林も伐採して建材として活用することが望ましい。但し、消費者にも知る権利や選択の権利はあるので、何らかの形で表示して伝えることが必要である。風評被害などを防ぐためには、予め健康被害が出ないことを十分にかつ丁寧に伝える必要はある。放射性物質のような危険物の管理の原則は、集中して、つまり高濃度で管理することであるが、自然に拡散してしまった放射性

物質の場合は、上記のように、健康被害が出ない範囲において、広く薄く管理することが現実的であると思われる。

6. 戦略的放置(お金、木材や非木材産物の用途が限定されていること、経済的価値をなかなか認められていないこと、下流域の被ばくリスクの程度、森林内の作業による被ばく、福島以外での林業や里山地域の現状を考えると、きっと放置が多くの地域にとって現実的。特に、何かアクションを起こす主体(住民)がいないとアイデアがあっても何もできない。)アクションを起こす主体(住みたい、売りたい、作りたい等の思いがあり、それを有言実行する人)のいるところでは、林業(木材用、バイオマス用?)、研究/演習林としての管理(この Cs 汚染のいわば副産物として、森林中の土や養分の動態・長期の動きについて知見が深まったのでは?)

7. 放射性物質が降下沈着した地域の森林に対して取りうる手段としては、1.手をつけず放置する 2.研究のサンプルとして木材を輸出 3.放射線除去の為葉や土壌などを除去する等が挙げられる。1.は放射性物質が降下・沈着した森林地域全体の動態を自然状態でモニタリングしていくことで、放射性物質が及ぼした影響を調べることや今後このような事件があったときのための知見とすることができる。また地元住民はきのこや山菜等、森林生態系の恵みから生活が成り立っている側面もあるので、むやみやたらに森林に手をつけて生態系を変化させてはいけないのではないかという考えもある。2.は放射性物質が降下した木は他の地域の土壌環境下ではどのような生育特性を及ぼすかということを見る上で有効である。3.は放射性が降下した地域は同時に人が住む場所であり、放射線を取り除き生活の安全を保証しなければならないという考えのもとである。